

チャレンジ！！オープンガバナンス 2019 市民／学生応募用紙

地域課題タイトル (注1)	No. 9_1/1_1	タイトル シビックプライドの醸成	自治体名 横浜市
アイデア名(注2) (公開)	カセジョ育成 & 支援の中心都市・横浜 ～女性が生き生きと誇りを持って働けるプラットフォームを築く～		

(注1) 地域課題タイトルは、COG2019 サイトの中に記載してあるエントリー自治体(連合)が掲げる地域課題を記入してください。

(注2) アイデア名は各チームが応募されるアイデアにつけるものです。アイデアにふさわしい名前を付けてください。

1. 応募者情報

チーム名(公開)	緑園リビングラボ設立準備会		
チーム属性(公開)	<input type="radio"/> 1. 市民によるチーム <input type="radio"/> 2. 学生によるチーム <input checked="" type="radio"/> 3. 市民、学生の混成によるチーム		
メンバー数(公開)	9名		
代表者情報	角谷桃花		
メンバー情報	氏名(公開)	井上佳奈実 永井絵梨奈 大坂祥子 小早川梨乃 鈴木優花 大楽麻夏 野村美由紀 内田奈津子	

(注意書き) ※ 必ず応募前にご一読ください。

<応募の際のファイル名と送付先>

1. 応募の際は、ファイル名を COG2019_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2019 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。 admin_padit_cog2019@pp.u-tokyo.ac.jp

<応募内容の公開>

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について：

「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY (表示) 4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC (表示-非営利) 4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。

(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)

4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公表いたしません)
5. この応募内容のうち、「3. 自治体との連携」は、非公開です。なお、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。

<知的所有権等の取扱い>

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

<チームメンバー名簿>

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。（2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。）

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容、(2) アイデアの理由、(3) 実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

(1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、課題解決のために、何をする社会的なサービス（活動）なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、魅力的で新規性があり、実践したり、活用したくなる、そしてその結果として、課題が解決される、そんなワクワク感のあるアイデアを期待します。2ページ以内でご記入ください。

<応募チームとして解決したい課題>

自分自身に誇りを持って働き、稼ぐ女性の力で、横浜を元気にし、超高齢・人口減少社会を乗り越えたい。

<解決アイデアの内容>

フェリス女学院大学は2020年に開校150周年を迎え、日本の女子教育のパイオニアとして横浜に根付いてきた。このプロジェクトにおいても中心的な役割を担い、これからの横浜を担う女性の学びや働きをエンパワーメントしていきたい。

課題解決のためのモデル地区として、フェリス女学院大学が立地する相鉄いずみ野線の緑園都市を選んだ。

緑園都市は、高齢化と人口減少が進む横浜南西部郊外の典型的な昔のニュータウンである。

そこで、カセジョ（雇用の枠にとらわれず、自身のスキルとオリジナルコンテンツによって、プライドを持って働き、稼ぐ女性）を育成支援し、ネットワークするための拠点や仕組みを創ることで、横浜市を全国一女性が活躍できる街にし、カセジョの力で社会全体を元気にしたい。

そのためまず、フェリス女学院大学が中心となり、市民や地元企業、行政と連携し、カセジョを育成・支援する。さらに、それらをネットワークするためのインターネットのサイト「カセジョプラットホーム RYOKUEN」を構築し、運営する。

「RYOKUEN」では、自立して働く女性のためのお役立ち情報をWEB上で発信する。また、住宅地の空き家や駅周辺のファーストフード店など地区内に既にある資源を有効に活用する。それにより、カセジョが自らのスキルアップをはかり、事業を興し、維持継続していくための仲間づくりや支援者を獲得するための場や機会を提供する。さらに、介護や子育て、教育などの地域の課題をカセジョがビジネスを通して解決する取組を積極的にプロモーションする。

このように、「RYOKUEN」を稼ぐ女性が生き生き働き、暮らすプラットフォームとしてブランディングすることで、相鉄線沿線や横浜市内のみならず、首都圏全体からカセジョ志望者やカセジョをつなげ、新たなビジネスを興したい人たちが横浜市を日本一、女性が元気に活躍する街にする。

◎カセジョプラットフォーム「RYOKUEN」の事業内容

<情報発信>

カセジョ及びカセジョを目指す人、またカセジョと連携してビジネスを興そうとする人材や大学生をターゲットにして、YouTube 等を活用することで下記の動画プログラムを配信する

1. **カセジョ紹介プログラム**：すでに活躍しているカセジョを大学生のセンスで、取材・編集し、動画で配信する。
2. **セミナープログラム**：経営に関する YouTube チャンネルを運営する。Vtuber（仮想キャラクターが YouTube の配信主として活動）をインフルエンサーに、経営のノウハウのみならず、これからの社会において必要となる基礎的な知識（ITリテラシ、AI、データサイエンスなど）を発信する。プログラムには、シルバー人材の持つノウハウも積極的に活用する。
3. **プロジェクト紹介プログラム**：カセジョが中心になって地域課題に取り組むプロジェクトの協力者を募集すると共に、その進捗状況について逐次動画で紹介する。

<場と機会の提供>

カセジョ育成支援のためのコミュニティづくりやネットワーク形成に向けて、駅近のファーストフード店や住宅地の空き家を有効に活用して、以下のプログラムを展開する。

1. 駅ナカのファーストフード店の活用例（ケンタッキーフライドチキン）：

- ・ ケンタッキーパスの展開・・・商品を購入すると、動画がダウンロードできるパスが発行される。これを発展的に活用し、カセジョ育成につながるコンテンツの配信をする（案）。
- ・ フリースペースとして・・・買い物帰りに気軽に寄れる、ラフに話せる場所として活用。ハンディキャップのある方や赤ちゃん連れでも来やすいカセジョの拠点。
- ・ ケンタッキーとの協働での商品・店舗開発・・・“「ファーストフード」から「スローフード」へ!!”をコンセプトに、カセジョの視点からケンタッキーの商品・店舗開発を行う。

2. 住宅地の中の空き家の活用：

- ・ カセジョ起業塾・・・起業塾の合宿所（短期）やシェアハウス（長期）として活用。講師には、退職後のノウハウをもつ地域の人材を活用。
- ・ アドレスホッパーのための拠点・・・カセジョのアドレスホッパーのための生活拠点として活用。
- ・ コワーキングスペース・・・カセジョのコワーキングスペースとして運営する。
- ・ 既存の空き家活用事業との連携・・・認知症カフェなど NPO や地元住民の既存の空き家活用事業と連携し、それぞれの事業をカセジョの力でパワーアップさせる。
- ・ フードロスなくすためのフードシェアリング・・・食品廃棄物のうち、加工食品中心に店舗などから回収し、空き家で安く再販売をする。アプリでニーズを把握し、コインロッカーのような形で再販売する。

(2) アイデアの理由（公開）

このアイデアを提案する理由について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ2ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類の数値データやアンケート・インタビューなどの資料や関連の計画、既存の施策などの定性データのことを総称します。データは出所を明らかにしてください。

◎社会統計でみる－女性の就業率の上昇と専業主婦の減少

横浜市における女性の労働力率を年齢別にみると、全年齢別で労働力率が上昇しているが、特に結婚や出産、育児などの時期と重なることの多い20代後半から30代前半までの上昇が大きく、30～34歳では1985年の約35%から2015年には約74%と倍増している。（総務省国勢調査）

このように、20代後半から30代前半の女性の就業率が1985年から2015年までの30年間で倍増した要因としては、共働き世帯の比率が増えたことや女性の未婚化・晩婚化が進んだことが要因として挙げられる。その結果、横浜市は、かつては夫が就労して妻が就労していない世帯割合が高く、1995年には、49.5%と全世帯のほぼ半数を占めていたが、2015年の時点では、その割合は29.1%まで減少している。（総務省国勢調査）

緑園都市のように1980年代から1990年代にかけて横浜郊外の鉄道沿線に造成された住宅地はかつてニュータウンと呼ばれ、東京で働くサラリーマンの夫と家事や子育てに専念する専業主婦という世帯のライフスタイルやニーズにあわせて街が住機能に特化してつくられている。そのため緑地や公園、文化施設、ロードサイドのショッピングセンターなどは充実しているが、女性が本格的に働ける事業所や企業の集積は薄い。その結果、就業希望や就業中の20代～40代の女性たちには選ばれない街として高齢化や人口減少が進んでいる。

以上のように、社会統計データをみても緑園都市のような昔のニュータウンを社会の変化に合わせて、持続可能なものにしていくためには、私たちが提案するカセジョのプロジェクトのように、女性が生き生きと誇りを持って働き、稼ぐことのできる機会と場、仕組みを地域内につくることが重要であることがわかる。

◎グループインタビューから－緑園都市の女性は働く場を求めている

私たちが提案する「カセジョプラットホーム RYOKUEN」の有効性を検証するため、相鉄ビルマネージメントの協力を得て、いずみの線沿線の女性起業家育成講座である「フタリバ」の受講生の方々にインタビューをさせて頂いた。

女性起業家の方（いずみ野沿線の住民の方）からのヒアリング

- ・ 日程 12月11日（水）15時～18時
- ・ 場所 フェリス女学院大学 学生ホール
- ・ 参加者 30～40代の子育て層の女性起業家6人、学生5人

(学生からの起業家の方々への質問)

「女性の就業環境について何か地域で悩みはあるのか。また地域にあったらよいものはあるか。」

・女性起業家1

「企業と出会える場を設け、学生時代に地域を味見しておいてもらえる。」

「スペックはそろっているので情報発信に力を入れていくべき。」

「問題点は子育てをする層には住みやすい地域であるにも関わらずその層の住民が少ない。」

・女性起業家2

「専業主婦としては住みやすいが、働く女性にとっては職場との距離の遠さがネックとなり選ばれづらい。また、緑園周辺地域は中学受験をする小学生が多く、塾の送り迎えがあるため一般的な仕事に就くことは難しい。」

・女性起業家 3

「自宅でできる仕事（フラワーアレンジメント教室、雑貨の制作と販売）の支援があると良いかもしれない。また駅から遠い戸建てでビジネスをするのは現実的ではない。」

・女性起業家 4

「緑園都市周辺地域は、ほかの地域の人が入ってくるのを嫌がる傾向がある。しかし地域住民などが運営をするなら比較的受け入れられやすいのではないか。（コミュニティカフェ、交流スペース、認知症カフェ）」「地域の様子は商店街が老朽化している。空き店舗が増加し、入れ替わりが多い。」

・女性起業家 5

「都内からくるとき、何か目的や行きたいと思うものがないと行かないかもしれない。人材獲得や企業と接点を持つ場所だとよい。」

・女性起業家 6

「昼間はコワーキングスペースとして、夜は塾として運営している。施設内に塾生の家族が使える共同スペースを設けることによって、塾生と社会人のつながりができ、情報交換の場としても機能している。公民館のような環境だ。このような機関を、空き家を活用して作ってみることもよいかもしれない。」

◎ 社会環境の考察から—10年後の未来に女性が活躍できるか

女性の活躍が叫ばれる今、女性活躍推進法の改訂などにより女性の社会進出を後押しする気運が高まっている。しかし、内閣府の世論調査の結果を見ると、自分の生活において仕事と家庭生活をともに優先している男女の比率は約 21%とほぼ同じであるにもかかわらず、仕事を優先していると答えている女性の比率が 15.8%であるのに対して、男性の比率は 37.0%になっている。一方で家庭生活を優先していると答えた女性の比率が 41.5%であるのに対して、男性の比率は 17.5%になっている。このことから女性のほうが未だに家庭生活の面で負担を強いられていることが分かる。少子高齢化により人材が不足していくことが予想される中、女性の社会参加は必然であり、確実に進めていく必要がある。

また、SDGs の 17 の目標のうち、第 5 の目標（ジェンダー平等）を実現するという観点からも、地域で女性が生き生きと誇りを持って、働くことのできる場を創出することは、国際社会の要請にもかなっている。

以上のことから「カセジョプラットフォーム RYOKUEN」を緑園リビングラボで構築・運営することは、10年後の未来に女性が活躍できる社会を創るといった観点からも有効だと考える。

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを実現する主体、アイデアの実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの実現にいたる時間軸を含むプロセス、実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、アイデア実現までの大まかな流れについて、2 ページ以内でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

このアイデアの実現を目指すにあたって、以下のプロセスを考えている。

◎ アイデアを実現する主体

フェリス女子学院大学 GIS 研究会の学生メンバーが中心となり、株式会社 Woo-By-Style、一般社団法人 YOKOHAMA リビングラボサポートオフィスの参画と横浜市政策局の支援によって、「カセジョプラットフォーム RYOKUEN」を構築する。その運営主体として、「緑園リビングラボ」を立ち上げる。

◎ 実現に必要なヒト

以下の場や機会を活用したプロモーション活動によって、アイデアを宣伝し、緑園リビングラボに賛同し、協力してくださる個人・団体を探す。

- ・YOKOHAMA リビングラボサポートオフィス 総決起集会（2019 年 12 月 26 日 開催）で発表
- ・かながわサーキュラーエコミーフォーラム 2020（2020 年 1 月 13 日 開催）で発表
- ・サステナブル・ブランド国際会議 2020 横浜（2020 年 2 月 19 日・20 日 開催）で発表 等

◎ 実現に必要なモノ

「カセジョプラットフォーム RYOKUEN」の構築に向けて、WEB サイトの具体的なメニューについて検討すると共に、アンテナショップとなる緑園都市駅構内にあるケンタッキーフライドチキンの店舗活用のアイデアについて、日本 K F C ホールディングス(株)と協議する。また地区内の空き家の活用のあり方についても、緑園都市コミュニティ協会と検討することで実施計画を策定するための準備を行う。

◎ 実現に必要なカネ

プラットフォームを立ち上げるための初期資金を「ローカルグッドヨコハマ」のクラウドファンディング機能を活用することで捻出する。

4 月以降に実施計画を策定し、資金の獲得の後、プラットフォームを構築し、1 年間、実験的に運用する。その後、実験の成果を検証したうえで、2021 年の 6 月から本格稼働させる。

カセジョ育成の流れ	2020年												2021年				
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
緑園リビングラボの立ち上げ																	
プロモーション活動																	
実施計画の作成																	
カセジョプラットフォームの構築																	
資金の獲得																	
実験的な事業の試行																	
検証																	

